

中東情勢の緊迫化に伴う「調剤関連資材等への影響」に関する 実態調査報告書

一般社団法人 日本保険薬局協会
医薬品流通検討委員会

2026年7月

調査概要

- 目的：中東情勢・ナフサ供給不安に伴う調剤関連資材の調達遅延、在庫状況、現場対応の実態を把握すること
- 内容：全7問（小問含めると20問） / 選択式回答方式（一部自由記述方式） / 回答所要時間 約10分
- 対象：保険調剤業務を取り扱う薬局の管理薬剤師 1薬局 1回答
- 方法：オンラインWEB調査 1薬局 1回答
- 回答期間：2026年6月15日（月）～2026年7月3日（金）
- 回答数：5,466薬局
- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 医薬品流通検討委員会

調査結果 Summary

本調査では、軟膏容器、水剤ボトル、分包紙を中心に、調剤関連資材の調達リードタイムが平時より延長しているとする回答が多くみられた。特に、軟膏容器では「1週間以上の遅れ」の回答割合が89.5%と最も高く、水剤ボトル、分包紙でも7割を超えた。在庫量については、軟膏容器および分包紙で「在庫1カ月未満」の回答割合が約4割を占め、在庫面での懸念が一定程度示された。

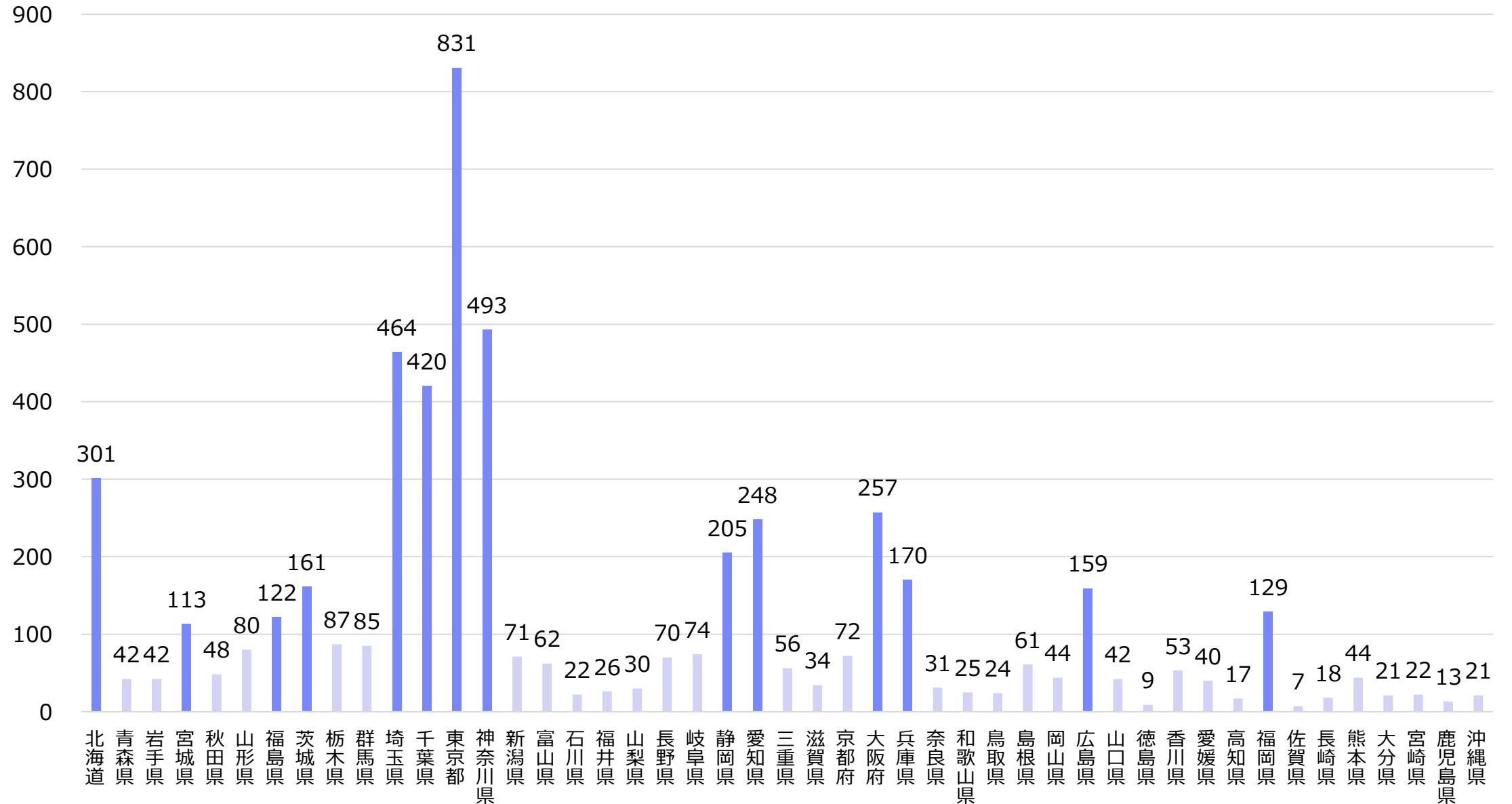
一方で、資材が一律に入手できない状況ではなく、各薬局では在庫状況を確認しながら対応している。現場では、「薬局間での在庫調整」62.8%、「資材の節約」47.8%を中心に、資材の納品までの間、薬局間・店舗間で調整しながら必要な調剤対応を継続している。

自由記述では、処方医との連携、調剤運用の見直し、容器再利用、代替資材の活用など、現場での具体的な工夫が確認された。また、資材以外にも包装資材、医薬品供給、物流、価格上昇などへの影響を懸念する声が見られたが、現時点で広範な影響の顕在化は確認されなかった。

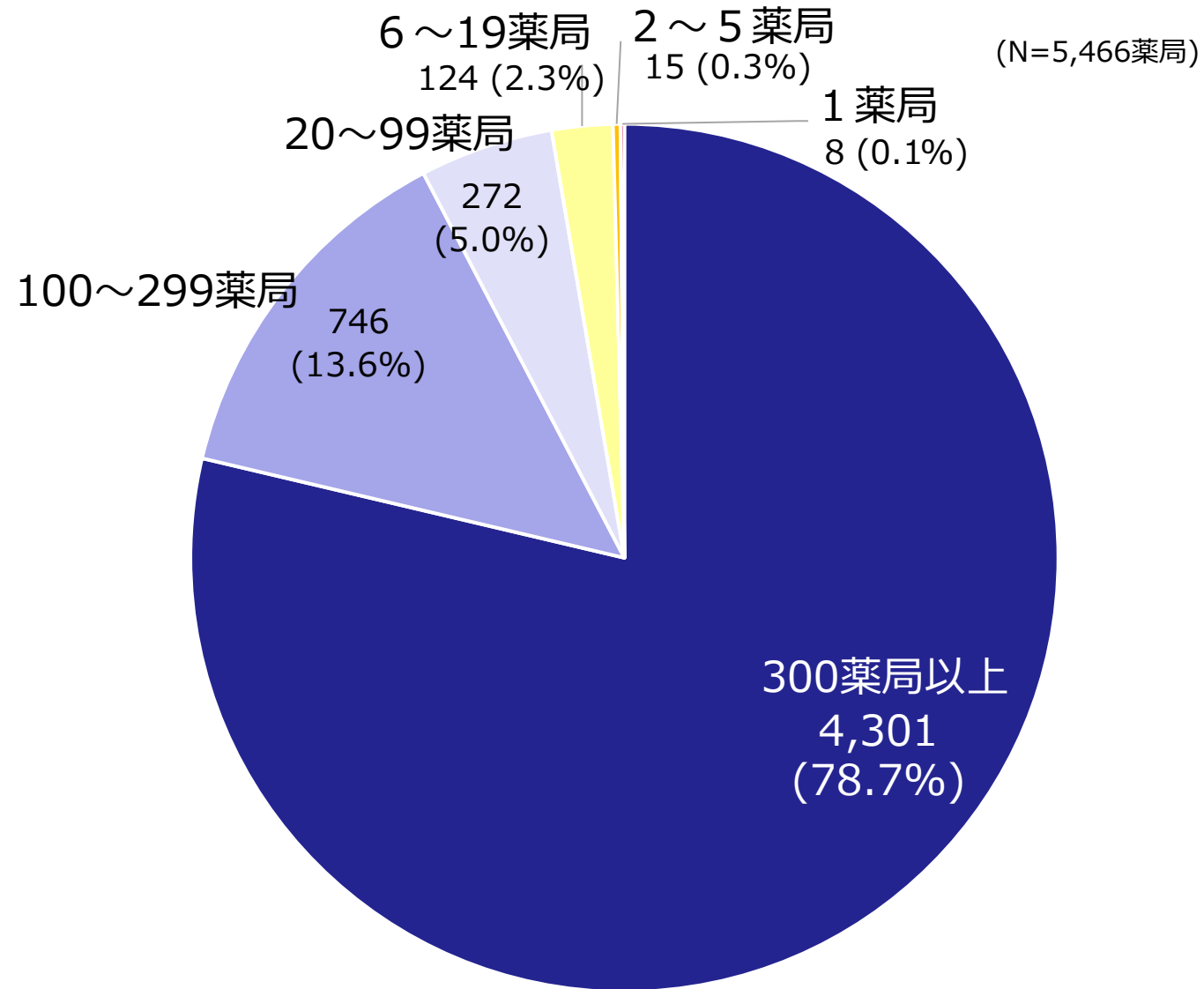
本調査は通常時との比較データを持たない緊急的な実態把握であるため、結果の解釈には留意が必要であり、今後も現場の声が継続する場合には、再調査等により経過を確認する必要がある。

回答薬局数の都道府県分布

(N=5,466薬局)

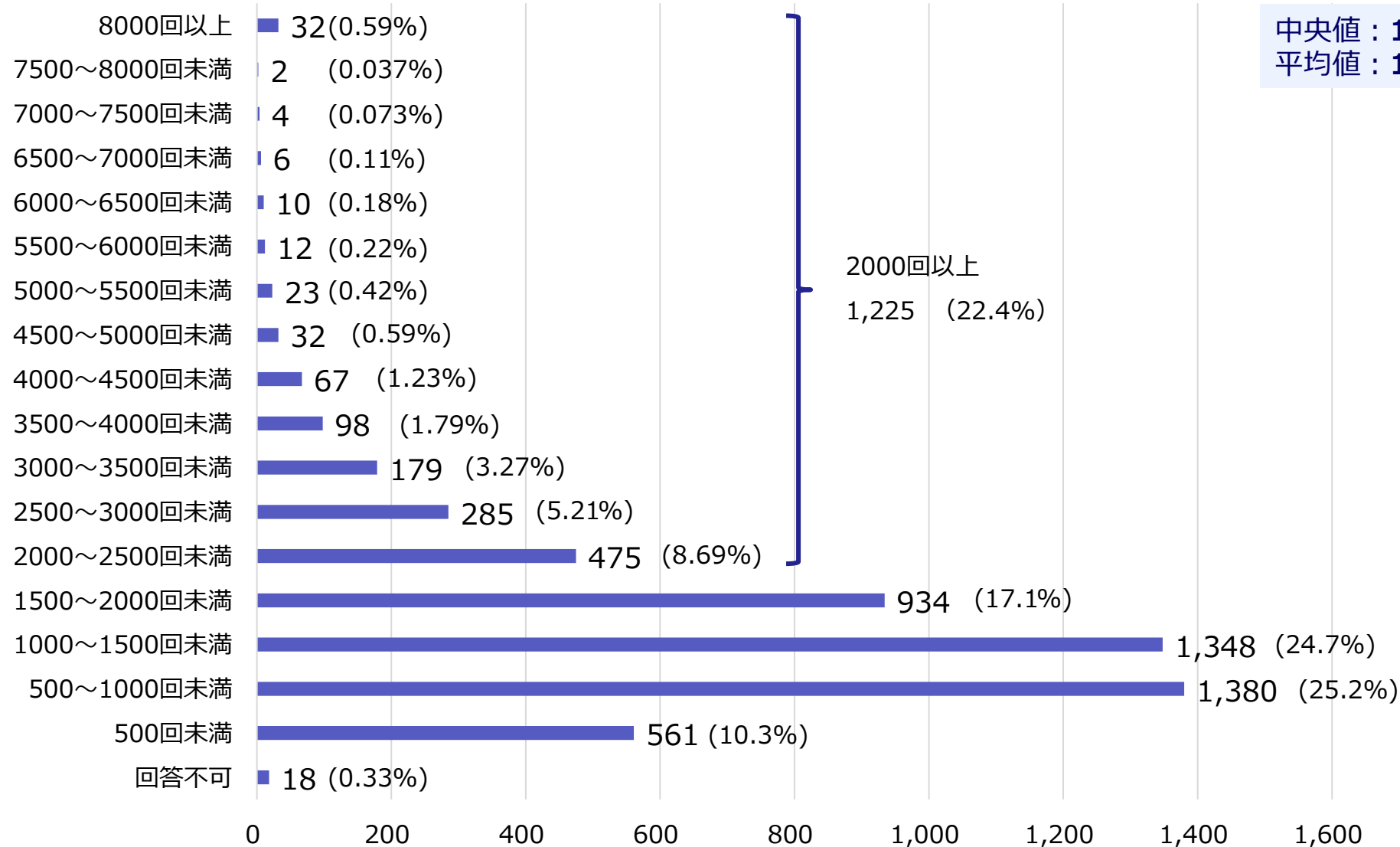


所属グループの規模



処方せん受付回数（26/5月実績）

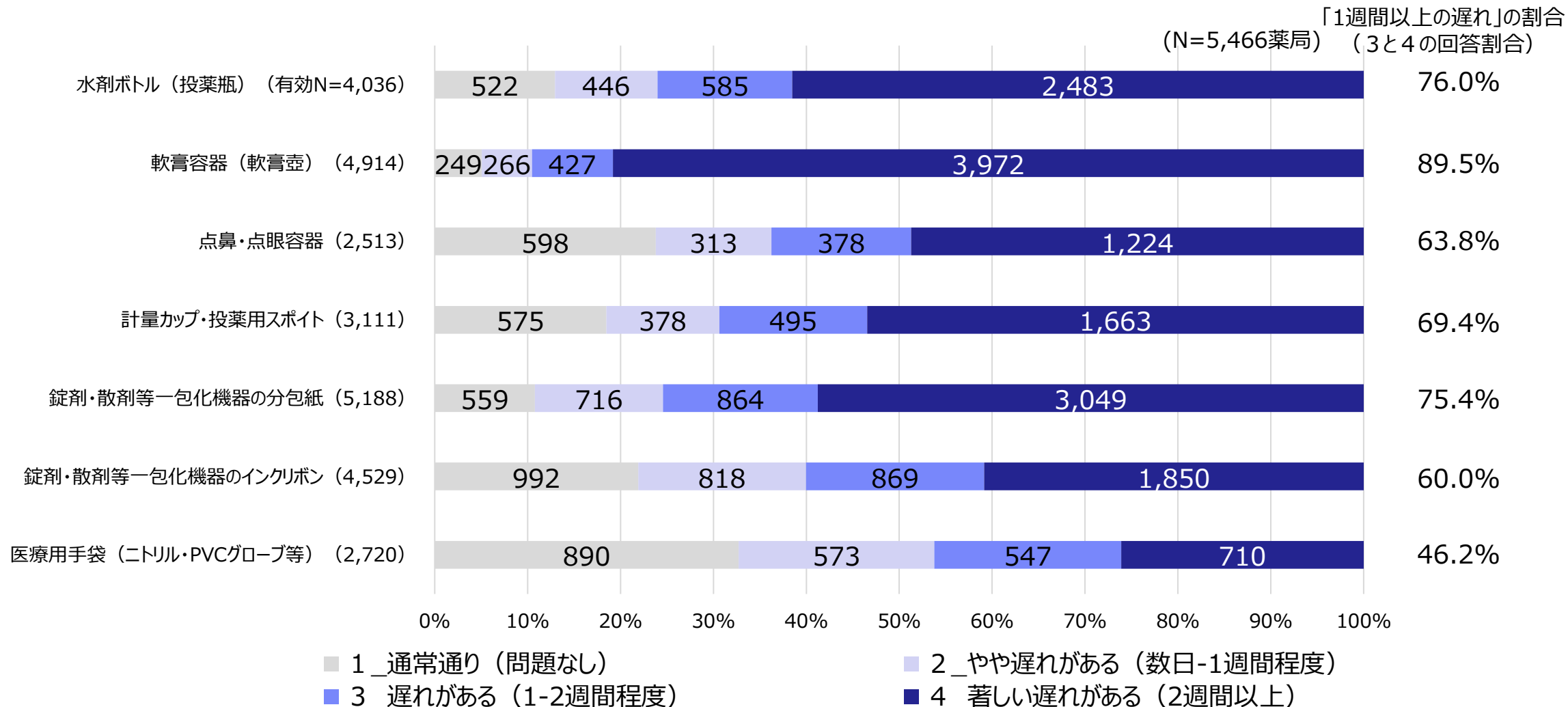
(N=5,466薬局)



▶ 回答不可を除外し、各選択肢の中央値を代表値として算出

調達リードタイム

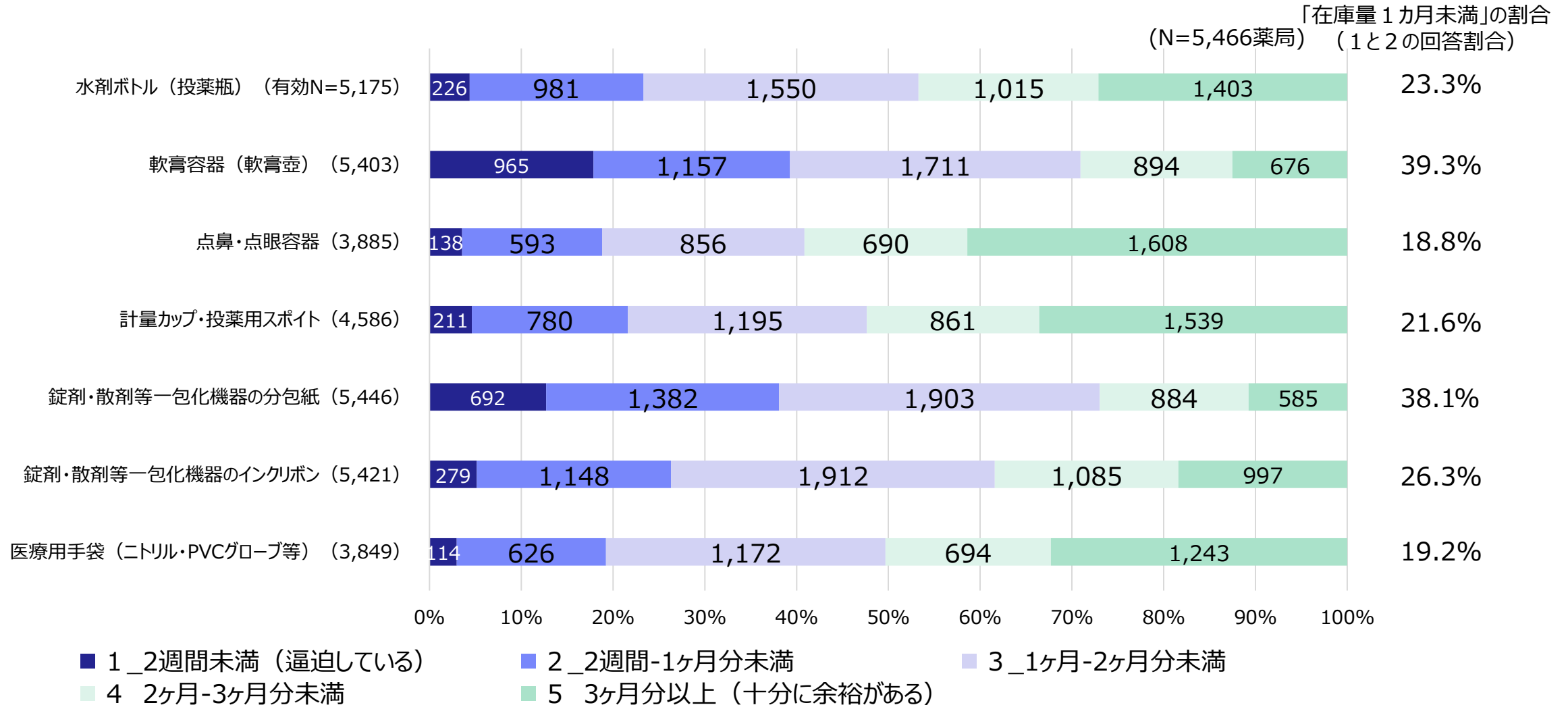
多くの資材で、平時よりも調達リードタイムが延長しているとする回答が多くみられた。特に、軟膏容器、水剤ボトル、分包紙の順で、「1週間以上の遅れ」の回答割合が高かった。一方で、資材が一律に入手できない状況ではなく、各薬局では在庫状況を確認しながら、納品までの間の対応を行っている。引き続き、過度な不安や過剰発注を避け、冷静な対応を継続することが求められる。



▶ 有効N数は、総回答数から「0_在庫なし (発注実績なし)」を除外した数。

在庫量

軟膏容器、分包紙に関しては、「在庫量1カ月未満」の回答割合が、約4割を占めた。一方で、資材が一律に入手できない状況ではなく、資材の納品までの間は、薬局間調整等により対応している状況がみられた。



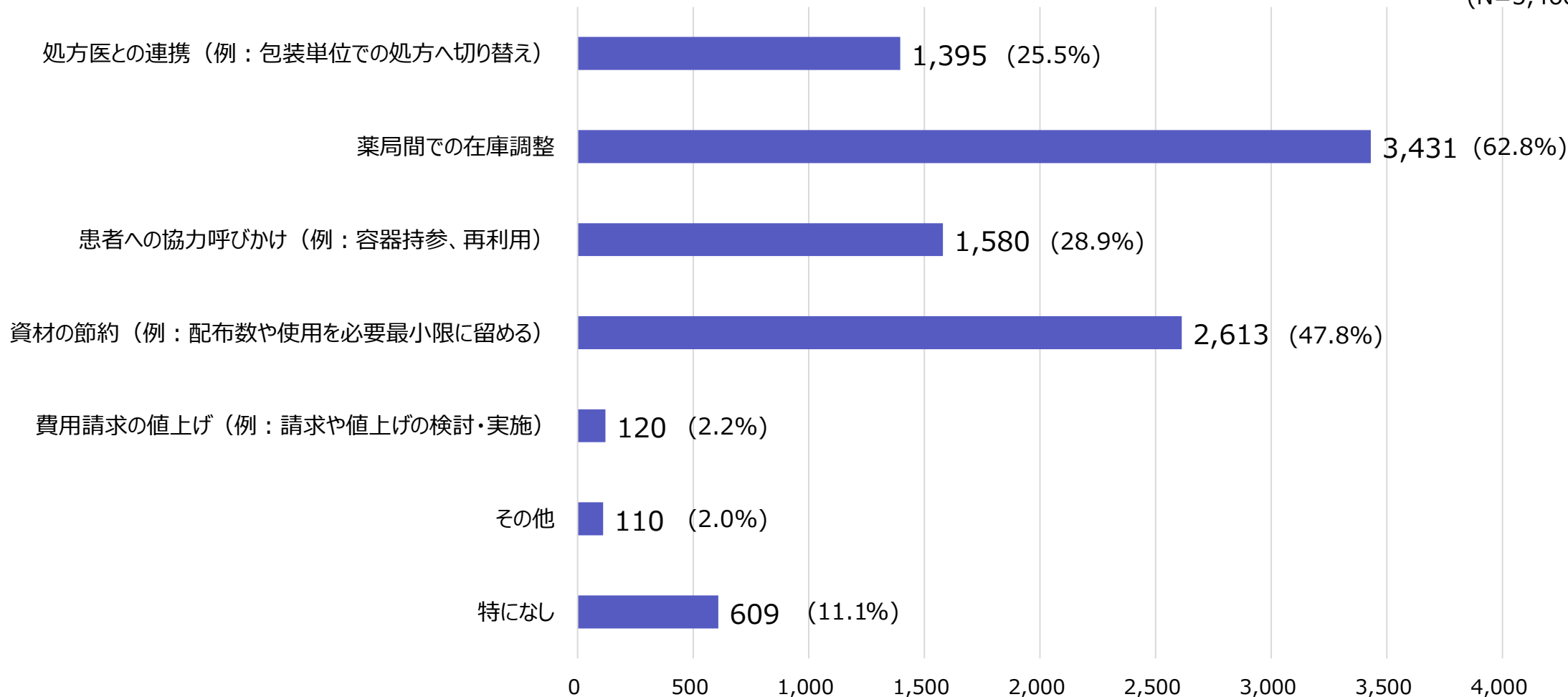
▶ 有効N数は、総回答数から「0_在庫なし (使用実績なし)」を除外した数。

薬局における対応・対策

平時より資材調達に時間を要することから、「薬局間での在庫調整（回答率62.8%）」や、「資材節約（同47.8%）」の対応をとっている回答が多かった。また、「患者への協力呼びかけ」28.9%、「処方医との連携」25.5%など、患者・医療機関と連携した対応もみられた。

問.各種資材の調達遅延や在庫減少のリスクに対して、貴店で「実際に始めている」、または「検討・準備している」対応があれば教えてください。（複数選択可）

(N=5,466薬局)



具体的な対応（コメント分類分け）

問. 選択された対応について、具体的な対応内容について教えてください。（任意回答、フリーコメント）

(自由記述回答：1,857件)

	分類	分類件数	主な内容
1	処方医連携・処方／調剤運用の見直し	1,183件	軟膏容器、水剤ボトル、分包紙の使用量を抑えるため、処方医や医療機関と連携し、剤形、包装単位、混合の要否、一包化の必要性、分包方法などを見直す対応。
2	資材使用量の抑制・患者協力・容器再利用	1,012件	容器、計量カップ、スポイト、薬袋、ユニパック、手袋などの使用量を必要最小限に抑える対応。あわせて、患者や施設に対し、容器持参、再利用、資材節約への協力を依頼する対応。
3	薬局間・グループ内での在庫融通／発注・在庫管理	572件	店舗間、近隣薬局間、グループ内で資材を融通する対応。本部やエリア単位で在庫を把握し、不足店舗へ再配分する対応。納期確認、在庫管理の強化も含む。
4	代替資材・別メーカー・別規格の活用	229件	通常使用している資材が不足または納品遅延している場合に、別メーカー品、別規格品、サイズ違いの容器、既存容器、代替資材を活用する対応。
5	費用請求・容器代の見直し	27件	資材価格の上昇や容器不足を踏まえ、容器代や患者負担の見直しを検討。ただし、患者負担につながるため慎重なコメントが多い。

▶ 1つの自由記述に複数の内容が含まれる場合は、複数分類しているため、分類件数の合計は自由記述回答数を上回る。

具体的な対応コメント 1

1 処方医連携・処方／調剤運用の見直し

- 軟膏容器への移し替えを減らすため、可能な範囲でチューブ包装単位での処方に变更してもらっている。
- 複数の軟膏が処方された場合、混合ではなく、重ね塗りの指示に変更してもらっている。
- 軟膏混合の必要性を確認し、不要な混合を避けるよう処方医と相談している。
- 水剤について、ボトル使用量を減らせるよう、処方日数や規格を医療機関と相談している。
- 小児処方について、可能な場合は水剤から散剤やドライシロップへ変更してもらっている。
- 分包紙の使用量を抑えるため、一包化の必要性を確認し、不要な一包化は控えている。
- 追加薬については、分包せずにヒートのままホチキス留めするなど、分包紙の使用を抑えている。
- 分包紙の幅を狭くし、1包あたりの使用量を抑えている。

2 資材使用量の抑制・患者協力・容器再利用

- これまで複数容器に小分けしていたものを、可能な範囲で1つの容器にまとめている。
- 容器のサイズを見直し、必要以上に小分けしないようにしている。
- 計量カップやスポイトは、必要な患者または希望者のみに交付している。
- 店内掲示や投薬時の説明により、資材節約への協力を患者に呼びかけている。
- 水剤ボトルや軟膏容器について、洗浄後の持参を患者に依頼している。
- 患者が持参した空容器を確認し、衛生面・安全面に問題がない場合に再利用している。
- 施設に対して、使用済み容器をすぐ廃棄せず、保管してもらうよう依頼している。
- 薬袋やユニパックについて、患者の手元にある場合は追加交付を控えている。

具体的な対応コメント2

3 薬局間・グループ内での在庫融通／発注・在庫管理

- 近隣薬局と資材の在庫状況を共有し、必要に応じて融通している。
- 本部やエリア担当者が在庫状況を確認し、薬局間の調整をしている。
- 店舗内の資材在庫をこまめに確認し、不足が見込まれるものを早めに把握している。
- 納品業者に納期を確認し発注している。
- 必要量を見極めながら、過剰発注にならないよう注意している。

4 代替資材・別メーカー・別規格の活用

- 100g容器が不足しているため、50g容器を2個使用して対応している。
- 在庫のあるサイズの軟膏容器を使用し、処方量に合わせて調整している。
- 通常使用している容器が入手できない場合は、別メーカー品や別規格品を検討している。

5 費用請求・容器代の見直し

- 容器を持参した患者には、容器代を請求しない運用としている。
- 調達先の変更等により軟膏容器の納入価が上昇し、患者への請求額を見直さざるを得ない。
- これまで無料で渡していた軟膏容器について、持参・再利用を促すため一定額を請求する運用に変更した。
- 患者負担につながるため、値上げは慎重に判断している。

資材以外の影響（フリーコメント）

包装資材、周辺消耗品、医薬品供給、物流、価格上昇などへの影響を懸念する声がみられたが、現時点で広範な影響の顕在化は確認されなかった。

問. 資材（容器や分包紙等）以外において、中東情勢やナフサ供給不足に起因するとみられる影響について、現場で気づいたことや懸念している点があればご記入ください。（任意回答、フリーコメント）
（自由記述回答：1,448件）

	分類	分類件数	主な内容
1	包装資材・周辺消耗品への影響	796件	容器や分包紙以外にも、ユニパック、チャック付き袋、レジ袋、薬袋、ゴミ袋、PTPシート、ラベル、インク、コピー用紙、輪ゴムなど、薬局業務で日常的に使用する周辺資材への影響を懸念する回答が多かった。具体的には、入荷遅延、供給不足、納期末定、価格上昇などへの言及がみられた。調剤そのものに直接使用する資材だけでなく、患者への交付、包装、保管、薬局内業務を支える消耗品全般に影響が広がる可能性を懸念する内容であった。
2	医薬品供給・出荷調整への波及懸念	576件	資材不足が医薬品本体の供給に波及することを懸念する回答が多かった。特に、PTP包装、外用薬の容器、チューブ製剤、原薬・製剤の製造、包装工程などへの影響を通じて、医薬品の出荷調整や欠品が拡大するのではないかという声がみられた。すでに医薬品供給不安が続く中で、資材不足が重なることへの警戒感が示されていた。
3	価格高騰・コスト負担への懸念	446件	資材、包装資材、周辺消耗品、医薬品、送料、燃料費等の価格上昇に関する回答が多かった。資材費や配送費の上昇が薬局のコスト負担につながる一方で、患者負担へ直ちに転嫁することは難しく、薬局側で負担を吸収せざるを得ないことへの懸念もみられた。今後、価格上昇が長期化した場合の薬局経営への影響を不安視する内容も含まれていた。
4	物流・納期遅延・長期化／先行き不透明	433件	入荷遅延、納期末定、数量制限、発注困難など、物流や納期に関する不安が多くみられた。現時点では在庫や代替ルートで対応できている場合でも、今後の見通しが立ちにくいこと、次にどの資材が不足するか分からないこと、状況が長期化した場合に通常業務への影響が大きくなることへの懸念が示されていた。
5	患者対応・調剤業務継続への影響	380件	資材や医薬品の不足が、患者対応や通常の調剤業務に及ぼす影響を懸念する回答がみられた。特に、一包化、水剤調剤、軟膏調剤、処方応需、患者説明、問い合わせ対応への影響が挙げられていた。資材が不足した場合、調剤方法の変更、患者への説明、医療機関との調整が必要となり、現場の業務負担が増えることへの懸念も含まれていた。
6	適正発注・買い占め・情報共有／関係者対応への要望	150件	過剰発注、買い占め、在庫抱え込み、不安を背景とした大量発注への懸念がみられた。必要以上の発注が流通の偏りや目詰まりを招き、必要な薬局に資材が届きにくくなることを懸念する内容であった。また、メーカー、卸、行政、業界団体に対し、供給見通しの共有、適正発注の呼びかけ、流通調整、冷静な情報発信を求める回答も含まれていた。

▶ 1つの自由記述に複数の内容が含まれる場合は、複数分類しているため、分類件数の合計は自由記述回答数を上回る。

統計解析

- χ^2 検定：カテゴリーデータにおいて、区分間で回答割合に統計学的な差があるかを確認する検定。本報告では、 $p < 0.05$ を統計学的に有意とした。
- Cramer's V：2つのカテゴリー変数の関連の強さを0から1の数値で示す効果量。本報告では、0.10未満を「ほぼ関連なし」、0.10以上0.30未満を「小さい関連」、0.30以上0.50未満を「中程度の関連」、0.50以上を「大きい関連」とした。
- Spearmanの順位相関係数：順序のある区分間で、目的変数の割合が一貫して増加または減少する傾向があるかを確認するための指標。本報告では、Cohenの相関係数に関する一般的な効果量基準を参考に、 ρ の絶対値が0.10未満を「ほぼ傾向なし」、0.10以上0.30未満を「弱い傾向」、0.30以上0.50未満を「中程度の傾向」、0.50以上を「強い傾向」とした。
- 本調査は回答数が多いため、わずかな差でも統計学的に有意となる場合がある。そのため、 p 値だけでなく、Cramer's VやSpearmanの ρ などの効果量もあわせて解釈した。

都道府県 (100回答以上の14都道府県) × 調達リードタイム (著しい遅れありの回答割合)

すべての資材で都道府県による統計学的な有意差が確認されたが、Cramer's Vはいずれも0.30未満であり、効果量は「小さい関連」にとどまった。したがって、都道府県による差は一定程度みられるものの、都道府県だけで調達リードタイムの遅延を強く説明できるわけではない。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	効果量判定
水剤ボトル	3,056	<0.001	0.162	小さい関連
軟膏容器	3,688	<0.001	0.104	小さい関連
点鼻・点眼容器	1,998	<0.001	0.238	小さい関連
計量カップ・スポイト	2,426	<0.001	0.196	小さい関連
分包紙	3,837	<0.001	0.193	小さい関連
インクリボン	3,321	<0.001	0.177	小さい関連
医療用手袋	1,912	0.005	0.125	小さい関連

▶ 都道府県別解析は、回答数100件以上の14都道府県を解析対象とし、回答数が少ない都道府県は、割合の変動が大きくなるため、解析対象から除外した。調達リードタイムは「発注実績なし」を除外して解析した。

都道府県 (100回答以上の14都道府県) × 在庫量 (在庫1カ月未満の回答割合)

医療用手袋を除く資材で、都道府県による統計学的な有意差が確認されたが、効果量はいずれも小さく、都道府県だけで在庫逼迫を説明できるほどの強い関連は認められなかった。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	効果量判定
水剤ボトル	3,865	<0.001	0.165	小さい関連
軟膏容器	4,038	<0.001	0.102	小さい関連
点鼻・点眼容器	3,016	<0.001	0.169	小さい関連
計量カップ・スポイト	3,492	<0.001	0.158	小さい関連
分包紙	4,060	<0.001	0.101	小さい関連
インクリボン	4,041	<0.001	0.125	小さい関連
医療用手袋	2,737	0.172	0.080	ほぼ関連なし

▶ 都道府県別解析は、回答数100件以上の14都道府県を解析対象とし、回答数が少ない都道府県は、割合の変動が大きくなるため、解析対象から除外した。
在庫量は「使用実績なし」を除外して解析した。

薬局グループ規模 × 調達リードタイム (著しい遅れありの回答割合)

一部の資材で薬局グループ規模による有意差が確認されたが、Cramer's Vはほとんどが0.10未満であり、効果量は「ほぼ関連なし」であった。Spearmanの順位相関係数もほとんどが0.10未満であり、薬局グループ規模が大きいほど、または小さいほど、「著しい遅れあり」の割合が一貫して高くなる傾向は確認されなかった。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	V判定	Spearman ρ	ρ p値	ρ 判定
水剤ボトル	4,036	0.003	0.059	ほぼ関連なし	0.003	0.871	ほぼ傾向なし
軟膏容器	4,914	<0.001	0.092	ほぼ関連なし	0.055	<0.001	ほぼ傾向なし
点鼻・点眼容器	2,513	<0.001	0.105	小さい関連	-0.026	0.190	ほぼ傾向なし
計量カップ・スポイト	3,111	<0.001	0.075	ほぼ関連なし	-0.005	0.764	ほぼ傾向なし
分包紙	5,188	<0.001	0.066	ほぼ関連なし	0.028	0.041	ほぼ傾向なし
インクリボン	4,529	0.234	0.031	ほぼ関連なし	0.011	0.464	ほぼ傾向なし
医療用手袋	2,720	0.265	0.038	ほぼ関連なし	-0.021	0.274	ほぼ傾向なし

▶ 薬局グループ規模は、少数区分を統合し、「1~19薬局」「20~99薬局」「100~299薬局」「300薬局以上」の4区分で解析した。調達リードタイムは「発注実績なし」を除外して解析した。

薬局グループ規模 × 在庫量 (在庫1カ月未満の回答割合)

一部の資材で薬局グループ規模による有意差が確認されたが、Cramer's VおよびSpearmanの順位相関係数はいずれも小さく、薬局グループ規模による一貫した傾向は確認されなかった。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	V判定	Spearman ρ	ρ p値	ρ 判定
水剤ボトル	5,175	<0.001	0.056	ほぼ関連なし	-0.012	0.372	ほぼ傾向なし
軟膏容器	5,403	<0.001	0.093	ほぼ関連なし	0.090	<0.001	ほぼ傾向なし
点鼻・点眼容器	3,885	<0.001	0.116	小さい関連	-0.076	<0.001	ほぼ傾向なし
計量カップ・スポイト	4,586	<0.001	0.088	ほぼ関連なし	-0.053	<0.001	ほぼ傾向なし
分包紙	5,446	0.058	0.037	ほぼ関連なし	-0.026	0.054	ほぼ傾向なし
インクリボン	5,421	0.007	0.047	ほぼ関連なし	-0.020	0.147	ほぼ傾向なし
医療用手袋	3,849	<0.001	0.067	ほぼ関連なし	0.063	<0.001	ほぼ傾向なし

▶ 薬局グループ規模は、少数区分を統合し、「1~19薬局」「20~99薬局」「100~299薬局」「300薬局以上」の4区分で解析した。在庫量は「使用実績なし」を除外して解析した。

月間処方せん受付回数 × 調達リードタイム (著しい遅れありの回答割合)

一部の資材で月間処方せん受付回数による有意差が確認されたが、Cramer's VおよびSpearmanの順位相関係数はいずれも小さく、受付回数による明確な傾向は乏しかった。したがって、調達リードタイムの著しい遅れは、処方せん受付回数が多い薬局だけでなく、広い範囲の薬局で生じていると考えられる。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	V判定	Spearman ρ	ρ p値	ρ 判定
水剤ボトル	4,024	0.006	0.060	ほぼ関連なし	-0.022	0.166	ほぼ傾向なし
軟膏容器	4,901	<0.001	0.072	ほぼ関連なし	0.038	0.007	ほぼ傾向なし
点鼻・点眼容器	2,503	<0.001	0.090	ほぼ関連なし	-0.064	0.001	ほぼ傾向なし
計量カップ・スポイト	3,100	0.018	0.062	ほぼ関連なし	-0.032	0.077	ほぼ傾向なし
分包紙	5,172	<0.001	0.073	ほぼ関連なし	-0.056	<0.001	ほぼ傾向なし
インクリボン	4,514	<0.001	0.069	ほぼ関連なし	-0.040	0.008	ほぼ傾向なし
医療用手袋	2,713	0.001	0.081	ほぼ関連なし	-0.027	0.166	ほぼ傾向なし

▶ 月間処方せん受付回数は、2,000回以上の高受付回数の少数区分を統合し、「500回未満」「500～1,000回未満」「1,000～1,500回未満」「1,500～2,000回未満」「2,000回以上」の5区分に再分類して解析した。「回答不可」は解析対象から除外したため、記述統計の有効回答Nとは一致しない場合がある。調達リードタイムは「発注実績なし」を除外して解析した。

月間処方せん受付回数 × 在庫量 (在庫1カ月未満の回答割合)

多くの資材で、処方せん受付回数が多い薬局ほど、在庫1カ月未満となる割合が高い傾向がみられた。Spearmanの順位相関係数では、軟膏容器を中心に弱い傾向が確認されたが、相関係数はいずれも0.30未満であり、受付回数のみで在庫逼迫を強く説明できるものではない。受付回数は在庫逼迫と関連する可能性がある一方、実際の在庫状況には、資材使用量、発注頻度、取引先、在庫管理体制など複数の要因が影響していると考えられる。

資材	解析対象N	χ^2 p値	Cramer's V	V判定	Spearman ρ	ρ p値	ρ 判定
水剤ボトル	5,157	<0.001	0.165	小さい関連	0.157	<0.001	弱い傾向
軟膏容器	5,385	<0.001	0.266	小さい関連	0.255	<0.001	弱い傾向
点鼻・点眼容器	3,870	<0.001	0.093	ほぼ関連なし	0.091	<0.001	ほぼ傾向なし
計量カップ・スポイト	4,570	<0.001	0.146	小さい関連	0.137	<0.001	弱い傾向
分包紙	5,428	<0.001	0.165	小さい関連	0.163	<0.001	弱い傾向
インクリボン	5,403	<0.001	0.147	小さい関連	0.143	<0.001	弱い傾向
医療用手袋	3,837	<0.001	0.153	小さい関連	0.148	<0.001	弱い傾向

▶ 月間処方せん受付回数は、2,000回以上の高受付回数の少数区分を統合し、「500回未満」「500～1,000回未満」「1,000～1,500回未満」「1,500～2,000回未満」「2,000回以上」の5区分に再分類して解析した。「回答不可」は解析対象から除外したため、記述統計の有効回答Nとは一致しない場合がある。在庫量は「使用実績なし」を除外して解析した。

月間処方せん受付回数別の在庫1カ月未満の回答割合

月間処方せん受付回数別にみると、多くの資材で、受付回数が多い区分ほど在庫1カ月未満率が高くなっていた。特に軟膏容器では、500回未満の18.3%に対し、2,000回以上では60.0%であった。受付回数の多い薬局ほど日々の資材使用量が多く、調達遅延が在庫逼迫として現れやすいためと考えられる。ただし、受付回数のみで在庫逼迫を説明できるものではなく、在庫管理体制や薬局間での融通体制なども影響している可能性がある。

資材	500回未満	500～1000回未満	1000～1500回未満	1500～2000回未満	2000回以上
水剤ボトル	12.5%	17.0%	23.8%	23.1%	34.1%
軟膏容器	18.3%	29.3%	38.0%	40.5%	60.0%
点鼻・点眼容器	13.1%	14.8%	19.2%	19.3%	23.6%
計量カップ・スポイト	12.7%	16.8%	21.4%	20.4%	31.0%
分包紙	22.2%	32.1%	37.6%	42.2%	48.9%
インクリボン	14.9%	21.2%	26.1%	27.7%	36.1%
医療用手袋	7.8%	12.5%	20.6%	20.9%	27.1%

▶ 問3「回答不可」を除外し、問5で「使用実績なし」と回答した薬局も除外して算出した。割合は、各受付回数区分における有効回答数を分母としている。

回答時期 × 調達リードタイム (著しい遅れありの回答割合)

回答時期による有意差が確認された資材もあるが、Cramer's Vはいずれも0.10未満であり、効果量は小さかった。軟膏容器、点鼻・点眼容器、計量カップ・スポイトでは、後半回答ほど「著しい遅れあり」の割合がやや低下していた。ただし、本調査は同一薬局を継続的に追跡したものではないため、時間経過による改善と断定することはできない。調査時点では、一部資材で遅延がやや緩和している可能性はあるものの、明確に回復しているとは言いにくい。

資材	6/15~6/19 (N=2,552)	6/20~6/26 (N=2,134)	6/27~7/3 (N=780)	p値	Cramer's V	判定
水剤ボトル	62.2%	61.7%	58.9%	0.359	0.023	有意差なし
軟膏容器	83.4%	79.0%	77.0%	<0.001	0.065	有意差あり・効果量ほぼなし
点鼻・点眼容器	51.5%	46.8%	44.9%	0.025	0.054	有意差あり・効果量ほぼなし
計量カップ・スポイト	56.1%	51.4%	49.8%	0.013	0.053	有意差あり・効果量ほぼなし
分包紙	56.7%	61.3%	58.7%	0.009	0.043	有意差あり・効果量ほぼなし
インクリボン	40.1%	42.0%	40.3%	0.451	0.019	有意差なし
医療用手袋	24.4%	29.4%	23.0%	0.006	0.061	有意差あり・効果量ほぼなし

▶ 回答時期は「6/15~6/19」「6/20~6/26」「6/27~7/3」の3区分に分けて解析した。同一薬局を追跡したものではないため、時間経過による改善・悪化として断定しない。調達リードタイムは「発注実績なし」を除外して解析した。列見出しのNは各回答時期の総回答数であり、割合は各資材の有効回答数を分母として算出した。

回答時期 × 在庫量 (在庫1カ月未満の回答割合)

分包紙を除く資材で、回答時期による有意差が確認されたが、Cramer's Vはいずれも0.10未満であり、効果量は小さかった。また、在庫1カ月未満の割合が後半ほど一貫して低下する傾向は確認されなかった。なお、本調査は同一薬局を継続的に追跡したものではないため、時間経過による改善・悪化として断定しない。

資材	6/15~6/19 (N=2,552)	6/20~6/26 (N=2,134)	6/27~7/3 (N=780)	p値	Cramer's V	判定
水剤ボトル	24.0%	21.5%	26.1%	0.023	0.038	有意差あり・効果量ほぼなし
軟膏容器	39.8%	36.7%	44.5%	<0.001	0.053	有意差あり・効果量ほぼなし
点鼻・点眼容器	21.1%	16.3%	18.3%	0.002	0.056	有意差あり・効果量ほぼなし
計量カップ・スポイト	23.7%	19.4%	20.7%	0.004	0.049	有意差あり・効果量ほぼなし
分包紙	39.1%	36.2%	39.9%	0.073	0.031	有意差なし
インクリボン	28.8%	22.7%	27.9%	<0.001	0.066	有意差あり・効果量ほぼなし
医療用手袋	20.0%	17.3%	22.3%	0.019	0.046	有意差あり・効果量ほぼなし

▶ 回答時期は「6/15~6/19」「6/20~6/26」「6/27~7/3」の3区分に分けて解析した。同一薬局を追跡したものではないため、時間経過による改善・悪化として断定しない。
在庫量は「使用実績なし」を除外して解析した。列見出しのNは各回答時期の総回答数であり、割合は各資材の有効回答数を分母として算出した。

調査結果まとめ / 今後の対応

調査結果まとめ

軟膏容器、水剤ボトル、分包紙を中心に、調達リードタイムが平時より延長しているとする回答が多くみられた。特に軟膏容器では、「1週間以上の遅れ」が89.5%と最も高かった。在庫量では、軟膏容器および分包紙で「在庫1カ月未満」が約4割を占め、在庫面での懸念が一定程度示された。一方で、資材が一律に入手できない状況ではなく、薬局間での在庫調整や資材節約により対応している。

統計解析では、都道府県、薬局グループ規模、回答時期による差は一部でみられたものの、効果量はいずれも小さく、特定の属性のみで状況を強く説明することは難しかった。一方、月間処方せん受付回数が多い薬局ほど「在庫1カ月未満」の割合が高い傾向がみられた。

自由記述では、処方医との連携、調剤運用の見直し、容器再利用、代替資材の活用など、現場での具体的な工夫が確認された。資材以外への影響を懸念する声もみられたが、現時点で広範な影響の顕在化は確認されなかった。

調査上の留意点

本調査は、調剤関連資材への影響を把握するための緊急的な実態調査であり、通常時との比較データは有していない。回答は各薬局の認識および回答時点の状況に基づくものであり、実際の納品状況や在庫量を客観的に測定したものではない。また、本調査は横断調査であり、調達遅延や在庫減少の原因を特定するものではない。

今後の対応

現時点では、資材が一律に入手できない状況ではなく、薬局間での在庫調整や資材節約により対応している段階である。過度な不安や過剰発注は、流通の偏りや目詰まりを招く可能性があるため、引き続き落ち着いた行動と適正発注が重要である。特に、軟膏容器、分包紙、水剤ボトルなど、調剤業務への影響が大きい資材については、供給状況を継続的に注視する。

現場から調達遅延や在庫減少に関する声が続く場合には、一定期間後に再調査を行い、状況が改善しているのか、継続しているのか、または悪化しているのかを確認する。また、必要に応じて、関係行政、メーカー、卸、関係団体等と情報共有を行い、資材供給の安定化に向けた対応を検討する。

参考) クロス集計

都道府県 × 調達リードタイム

問4「著しい遅れあり（2週間以上）」の回答割合（回答数100件以上の14都道府県）

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
北海道	46.5%	75.7%	38.7%	42.6%	43.4%	27.6%	20.8%
宮城県	65.2%	77.8%	40.4%	54.8%	59.4%	45.5%	22.4%
福島県	55.3%	77.9%	33.3%	51.4%	55.2%	35.2%	21.0%
茨城県	59.5%	81.3%	53.4%	54.9%	52.0%	38.1%	32.4%
埼玉県	74.9%	85.2%	72.5%	70.3%	58.1%	36.9%	29.9%
千葉県	70.0%	85.9%	56.3%	59.2%	77.1%	59.4%	39.0%
東京都	62.7%	83.6%	51.2%	56.7%	66.2%	46.8%	29.5%
神奈川県	57.1%	76.4%	41.1%	50.3%	59.5%	41.1%	22.9%
静岡県	74.6%	82.4%	67.4%	75.7%	39.0%	29.1%	19.4%
愛知県	64.6%	81.0%	48.8%	53.5%	56.0%	35.8%	21.4%
大阪府	54.8%	73.2%	34.1%	43.5%	61.8%	42.8%	27.1%
兵庫県	59.5%	80.1%	47.1%	53.3%	58.8%	45.0%	23.8%
広島県	59.4%	87.4%	37.5%	34.3%	69.1%	54.8%	22.0%
福岡県	66.3%	79.8%	35.6%	45.6%	62.4%	35.5%	24.6%

※回答数100件以上の14都道府県を対象。少数回答県は割合が不安定となるため除外。問4は「発注実績なし」を除外。

都道府県 × 在庫量

問5「在庫1カ月未満」の回答割合（回答数100件以上の14都道府県）

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
北海道	18.7%	41.0%	11.7%	19.1%	38.3%	28.7%	21.3%
宮城県	29.0%	39.8%	19.5%	25.3%	39.8%	25.0%	30.7%
福島県	19.5%	34.7%	11.1%	14.9%	30.3%	18.2%	16.1%
茨城県	6.0%	28.9%	13.9%	15.1%	36.3%	20.6%	20.6%
埼玉県	38.3%	32.4%	33.8%	36.9%	49.1%	39.8%	18.9%
千葉県	20.5%	37.8%	16.5%	19.5%	41.8%	24.8%	17.2%
東京都	25.0%	45.0%	19.0%	22.2%	36.4%	22.6%	19.5%
神奈川県	26.2%	43.1%	20.7%	22.7%	34.8%	25.8%	17.0%
静岡県	33.9%	45.8%	30.8%	33.3%	31.7%	24.5%	17.6%
愛知県	20.2%	38.2%	14.8%	18.3%	34.3%	24.5%	18.6%
大阪府	21.5%	36.1%	14.8%	19.3%	38.1%	24.3%	21.6%
兵庫県	22.0%	32.5%	12.2%	19.8%	33.1%	23.2%	13.7%
広島県	17.1%	35.3%	15.0%	12.7%	39.0%	23.4%	18.3%
福岡県	19.0%	38.6%	13.2%	14.4%	33.3%	19.4%	9.9%

※回答数100件以上の14都道府県を対象。少数回答県は割合が不安定となるため除外。問5は「使用実績なし」を除外。

薬局グループ規模 × 調達リードタイム

問4「著しい遅れあり（2週間以上）」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
1～19薬局	46.2%	60.5%	25.4%	35.5%	66.0%	38.0%	27.5%
20～99薬局	60.5%	75.3%	47.8%	50.0%	61.6%	44.9%	33.6%
100～299薬局	65.2%	81.3%	57.9%	59.5%	51.1%	38.1%	25.3%
300薬局以上	61.4%	81.8%	47.7%	53.1%	59.7%	41.2%	25.7%

※薬局グループ規模は「1～19薬局」「20～99薬局」「100～299薬局」「300薬局以上」の4区分に再分類。問4は「発注実績なし」を除外。

薬局グループ規模 × 在庫量

問5「在庫1カ月未満」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
1～19薬局	17.6%	30.3%	16.5%	13.5%	36.1%	23.3%	13.7%
20～99薬局	18.7%	33.3%	15.7%	22.0%	38.6%	23.2%	16.3%
100～299薬局	28.5%	29.8%	29.8%	30.2%	42.5%	31.3%	12.8%
300薬局以上	22.9%	41.6%	17.1%	20.3%	37.3%	25.8%	20.4%

※薬局グループ規模は「1～19薬局」「20～99薬局」「100～299薬局」「300薬局以上」の4区分に再分類。問5は「使用実績なし」を除外。

月間処方せん受付回数 × 調達リードタイム

問4「著しい遅れあり（2週間以上）」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
500回未満	70.5%	83.3%	60.1%	61.6%	69.0%	51.6%	35.9%
500～1000回未満	60.5%	78.7%	48.6%	53.6%	59.0%	39.6%	22.7%
1000～1500回未満	59.4%	78.8%	48.0%	50.9%	58.5%	40.9%	29.6%
1500～2000回未満	62.0%	79.1%	51.4%	55.6%	58.5%	40.6%	24.6%
2000回以上	61.0%	85.3%	44.1%	51.6%	55.2%	38.5%	24.2%

※月間処方せん受付回数は5区分に再分類し、「回答不可」は除外。問4は「発注実績なし」を除外。

月間処方せん受付回数 × 在庫量

問5「在庫1カ月未満」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
500回未満	12.5%	18.3%	13.1%	12.7%	22.2%	14.9%	7.8%
500～1000回未満	17.0%	29.3%	14.8%	16.8%	32.1%	21.2%	12.5%
1000～1500回未満	23.8%	38.0%	19.2%	21.4%	37.6%	26.1%	20.6%
1500～2000回未満	23.1%	40.5%	19.3%	20.4%	42.2%	27.7%	20.9%
2000回以上	34.1%	60.0%	23.6%	31.0%	48.9%	36.1%	27.1%

※月間処方せん受付回数は5区分に再分類し、「回答不可」は除外。問5は「使用実績なし」を除外。

回答時期 × 調達リードタイム

問4「著しい遅れあり（2週間以上）」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
6/15～6/19	62.2%	83.4%	51.5%	56.1%	56.7%	40.1%	24.4%
6/20～6/26	61.7%	79.0%	46.8%	51.4%	61.3%	42.0%	29.4%
6/27～7/3	58.9%	77.0%	44.9%	49.8%	58.7%	40.3%	23.0%

※回答時期は3区分に分類。同一薬局の追跡ではないため、時間変化としては断定しない。問4は「発注実績なし」を除外。

回答時期 × 在庫量

問5「在庫1カ月未満」の回答割合

区分	水剤ボトル	軟膏容器	点鼻・点眼容器	計量カップ・スポイト	分包紙	インクリボン	医療用手袋
6/15～6/19	24.0%	39.8%	21.1%	23.7%	39.1%	28.8%	20.0%
6/20～6/26	21.5%	36.7%	16.3%	19.4%	36.2%	22.7%	17.3%
6/27～7/3	26.1%	44.5%	18.3%	20.7%	39.9%	27.9%	22.3%

※回答時期は3区分に分類。同一薬局の追跡ではないため、時間変化としては断定しない。問5は「使用実績なし」を除外。



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会